

形成外科

医 長： 末延 耕作

「指導医と科の概要」

形成外科は専門医2名体制で、顔面骨骨折などの外傷や熱傷、先天性外表異常、良性、悪性の腫瘍、難治性潰瘍、癬痕、ケロイドの治療、マイクロサージャリーを用いた再建術、レーザー治療とほぼ形成外科全般の疾患を幅広く扱っている。当科での年間手術件数は約400件であり、入院患者は年間約170名である。近年、特に小児の口唇口蓋裂、小耳症の他、先天性外皮異常の手術が増加傾向にある。レーザーは、ルビーレーザー、色素レーザー、炭酸ガスレーザーの3台があり、各種のあざに対し、外来治療はもとより、入院全身麻酔下での治療も行っている。また、他科(耳鼻科、心臓血管外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、小児外科、脳神経外科など)との合同手術もあり、複数科でのチーム医療を大切に診療している。

「研修の目的と特徴」

一般外科疾患に対する基礎的な対応を学ぶとともに、形成外科基本手技の他、日本形成外科学会専門医制度細則にあげられた項目について、診断から治療までを取り扱う。

外傷は特に顔面外傷を主体に軟部組織損傷、顔面外傷および顔面骨骨折の診断、軽度の外傷・熱傷の処置、皮膚感染症への処置、簡単な切開・排膿、創部消毒とガーゼ交換、皮膚縫合法の修得、創傷治癒過程の理解などを目的とする。

「教育方法」

- i 受け持ち症例の治療方針および手術計画の検討
- ii 各種ドレッシング材を用いた被覆法の修得
- iii 後療法(スポンジ固定、テープ固定など)の修得
- iv 形成外科基本手技の修得
- v 遊離植皮術
- vi 肥厚性癬痕、ケロイドの保存的治療
- vii 簡単な体表の先天異常の治療
- viii 褥瘡などの難治性潰瘍の治療方針の修得

「修練目標と評価」

疾患名と経験例数	経験する手技と習得すべき知識
新鮮熱傷	急性期の熱傷処置方法、遊離植皮術、術後管理
顔面外傷(骨折を含む)	X線写真の撮影方法を理解し、診断および治療方法を理解する
顔面軟部組織	皮膚縫合法の習得、および術後の管理方法を修得
ケロイド	肥厚性癬痕とケロイドの鑑別および、治療
皮膚良性腫瘍	皮膚良性腫瘍の診断および、処置、手術

○ 評価

院内の研修マニュアルに従って上記症例・検査手技を最低限経験した後にEPOCにより4段階評価を行う。

* (付録①) 「将来の進路(専門研修に進んだ場合)と取得資格」

日本形成外科学会認定医: 初期臨床研修終了後、日本形成外科学会に入会し、日本形成外科学会の認定施設(又は教育関連施設)で4年以上の研修を行った者に、日本形成外科学会専門医試験受験資格が与えられる。当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設である。

* (付録②) 「Q&A」

Q. 将来一般外科医を目指しているのですが、形成外科を研修するとどんなメリットがありますか？

A. 形成外科の基本手技は、一般外科においても修得すべき手技の一つであると考えております。その応用には再建外科があります。また創傷治癒に関する知識は、どの外科系にも共通事項なので、早く、きれいに治せる外科医を目指してがんばってください。

Q. 将来、ゴールの高い患者を扱う事に興味があり、美容外科も視野に入れているのですが、この分野の研修は可能でしょうか？

A. 現在当院では私費診療は行っておりません。
しかし美容外科に進む前の基本手技はできると思います。
また希望があれば日本形成外科学会専門医による美容外科の研修先を紹介できます。
レーザー治療については当院で研修が可能です。